

## 岡山県人口ビジョン案、おかやま創生総合戦略案に対する パブリック・コメントでの主な意見と県の考え方

1 実施期間 平成27年8月27日(木)～平成27年9月25日(金)  
(30日間)

2 件数 岡山県人口ビジョン案 23件(16人・団体)  
おかやま創生総合戦略案 102件(48人・団体)

### 3 主な意見の要旨と県の考え方

#### (1) 岡山県人口ビジョン案

##### ○ 岡山県の人口の現状と分析

	意見の要旨	県の考え方
1	<p>【県内市町村の状況】</p> <p>岡山市や倉敷市を中心とする周辺地域と中山間地域である美作地域等は、同じ計画で語られるべきでない。岡山市や倉敷市の人口集中を是正する考えはないように見える。県北地域の将来を考えるのであれば、地域ごとの人口ビジョンも作成するべき。</p>	<p>県南都市部へ過度に人口が集中していくことは、決して望ましいことではないと考えており、人口ビジョンの目指すべき将来の方向として、「中山間地域等にあっても、拠点的地域において生活機能を確保し、地域活力を維持する」ことを記載しています。なお、地方創生の実現のためには、各地域がその状況を踏まえた目標を設定し、取組を進めていくことが重要であり、県による地域ごとの人口ビジョンの作成は考えていません。</p>

##### ○ 人口の将来展望

	意見の要旨	県の考え方
2	<p>【目指すべき将来の姿の基礎となる県民の希望等】</p> <p>県内大学生が卒業後に県外に転出したいと考える理由を把握するべきではないか。</p>	<p>人口ビジョンには記載していませんが、今回併せて調査した結果によると、県外へ転出したい理由は、県内出身者では「出身地から離れ自立したい」「都会に出たい」と回答した者が約6割、県外出身者では「出身地へ戻る」と回答した者が約半数となっています。</p>
3	<p>【目指すべき将来方向】</p> <p>人口減少の歯止めは無理であり、少子高齢社会に適した事業を提案するべき。将来の方向に対応した新規</p>	<p>人口ビジョンに記載しているとおり、このまま人口減少が進行した場合、地域活力の低下など深刻な影響が懸念されるため、若い世代の結婚・出産・子育てに関する希</p>

	事業を行うのか。若い世代の結婚を率先するべき。	望の実現などにより、人口減少に歯止めをかける必要があると考えます。一方で当面の間は、人口が減少し続けることから、総合戦略では両方の観点から対策を講じることとしており、将来の方向を達成するため、少子化対策など様々な分野で新たな事業を含め効果的な取組を行ってまいります。
4	<p>【目指すべき将来の方向】</p> <p>結婚したい年齢で結婚し、安心して出産・子育てするためには、若い世代の収入の確保が必要不可欠であることから、目指すべき将来の方向に追加するべきではないか。</p>	若い世代の経済基盤の確保は重要と考えており、目指すべき将来の方向の「①若い世代の結婚・出産・子育てに関する希望を実現する」に掲げる「安心して出産し子育てできる環境づくり」や「②県内での就職や本県への移住・定住に関する希望がかなえられ、県民が安心して住み続けられる魅力ある岡山県とする」に掲げる「県内の雇用創出や生活・教育・働きやすい職場環境の整備」は、結婚・出産・子育て世代の雇用や収入の確保も含んでいます。
5	<p>【目指すべき将来の方向】</p> <p>定住者が流出しないよう、地域の特色や魅力を伝えていく必要があるのではないかと。津山市の人口流出の大きな原因は就職であるため、雇用促進や企業誘致を行い、市内で職を探せるよう行政からもアプローチする必要がある。</p>	人口ビジョンの目指すべき将来の方向では、県内の雇用創出などにより、就職等による転出に歯止めをかけることとしており、その実現に向け総合戦略に掲げる企業誘致や地域産業の振興等の施策を積極的に推進してまいります。また、総合戦略に掲げるとおり、本県に対する愛着心と誇りの醸成を促進してまいります。

## (2) おかやま創生総合戦略案

### ○ 総合戦略案全般

番号	意見の要旨	県の考え方
1	<p>【総論】</p> <p>一般的に認知度が低い専門用語については、注釈を設ける等、県民皆が深く理解できるようにすべき。</p>	御意見を踏まえ、文中の分かりづらい専門用語等の用語集を巻末に加えます。
2	<p>【総論】</p> <p>岡山市や倉敷市及びその周辺地域と中山間地域である美作地域が同じ計画の中で語られるべきではなく、もう少し小さい地域ごとの計画も作</p>	地方版総合戦略は、県のみならず、全市町村で同時期一斉に主体性・独自性を発揮しながら策定するものであり、圏域で連携する市町村単位での策定も認められています。そのため、県が地域ごとに戦略を策定

	成・公表する必要がある。 地方創生という意味では特に中山間地域は総花的な計画ではなく、重点的な計画であるべきだと思う。	することは適当でないと考えています。
3	【総論】 岡山県人口ビジョンと戦略との関連が分かりにくい。	御意見を踏まえ、基本的な考え方の中で、本県の人口減少の状況等を記述するとともに、本県人口ビジョンの将来展望の要旨を追記します。
4	【総論】 各対策の語尾が「努めます、図ります、推進します、促進します、支援します」等で具体的でない。	本戦略は、人口減少問題を克服し、本県の持続的な発展を実現するための今後5カ年の目標や施策の基本的方向と施策を取りまとめているものであり、今後、市町村との連携を図りながら、施策の具体化を進めてまいります。
5	【岡山の強み】 岡山の強みは、岡山の優位性と参考データの列挙だけだが、文章としての記述があった方が読みやすいのではないか。	御意見を踏まえ、岡山の強みについての文章を記述します。

### ○ 講ずべき対策

番号	意見の要旨	県の考え方
6	【自然減対策】 結婚・妊娠・出産は個人の自由な選択によるものであり、合計特殊出生率を数値目標とすることは許し難く、該当部分の削除を求める。 また、「きめ細やかな保育の拡充」とあるが、「○年度までに保育施設を○箇所増設」や「保育士・幼稚園教諭を○人増員」と、具体的な数値目標設定がされないのかが疑問である。	合計特殊出生率の目標は個人に対して課すものではなく、県の取組などにより、県民意識調査で示された県民の結婚・出産に関する希望がかなった場合の出生率であり、この県民の希望をかなえることを目標として設定したものです。 また、幼児期の教育・保育の拡充については、具体的な内容までは本戦略に記載していませんが、各市町村が住民のニーズを踏まえて策定した計画に基づき推進しており、県としてもしっかりと支援することとしています。 なお、数値目標設定については、県が行う行政活動の結果（アウトプット）ではなく、その結果として県民にもたらされた便益（アウトカム）に関する数値目標を設定しています。

7	<p><b>【次世代育成に向けた意識の醸成】</b>  「男性の育児休業取得率」や「もっこカード協賛店舗数」がKPIになっているが合計特殊出生率との因果関係が不明確である。  例えば「婚姻届出数」、年代別の「婚姻数（結婚している人数）」の割合をKPIとすべきではないか。</p>	<p>このKPIは、政策パッケージ「次世代育成に向けた意識の醸成」の進捗を見るための指標として設定したものであり、結婚に関しては、結婚・子育てに前向きなイメージを描くことができるような意識醸成を目指す対策の評価指標として「いずれ結婚したい人の割合」を設定しています。</p>
8	<p><b>【結婚の希望をかなえる環境づくり】</b>  「結婚をサポートする体制の整備」で「スキルアップセミナーの実施」とあるが、何のスキルをアップするためのセミナーか不明である。</p>	<p>御意見を踏まえて、「コミュニケーション等のスキルアップセミナー」と変更します。</p>
9	<p><b>【妊娠・出産の希望がかなう環境づくり】</b>  高度医療（不妊治療）は高額のため補助金が出たとしても何度も受けることが困難である。出産後の育児支援も大切だが、まずは授かるための支援を手厚くしてもらいたい。</p>	<p>晩産化の進行によって不妊に悩む方が増加する中、県では、岡山県不妊専門相談センターによる相談支援のほか、高額な費用がかかる不妊治療への助成を実施し、心理的、経済的負担の軽減を図っているところです。  なお、本戦略の「妊娠・出産の希望がかなう環境づくり」にこの取組を進める旨を記載しています。</p>
10	<p><b>【子育て支援の充実】</b>  県は全域で広域保育を行っていない。どこの地域で働いていても出産後も職場を変えることなく働けるように子育ての環境を整えてほしい。</p>	<p>保育の実施主体である市町村において、地域の実情に応じた保育サービスを実施しています。県としても保育所の広域入所について、今後も必要に応じて関係市町村間の円滑な調整に努めてまいります。</p>
11	<p><b>【子育て支援の充実】</b>  保育士の人材育成はされているが、給料が職務と見合っていないので続けられない。待遇面の改善なしに育成と言っても現実とミスマッチしているようである。  放課後児童クラブについては地域によって内容が異なり、格差が大きい。</p>	<p>今年度、保育士等の人件費が約3%改善されるとともに、保育士の事務負担の軽減を図るための人的配置の制度が設けられています。県では保育士等の処遇改善など保育の質の改善に必要な財源の確保を確実に行うよう、国に対して引き続き要望してまいります。  また、放課後児童クラブは、各市町村が国の基準に基づいて条例を定め、地域の実情・ニーズを踏まえ、見直しを行いながら、運用を行っているところです。</p>

1 2	<p>【産業振興と雇用創出】</p> <p>中山間地域などへのサテライトオフィスは非常に中山間地域の起爆剤となり得るので、徳島県の取組を参考にして推進していただきたい。</p>	<p>御意見のとおり、中山間地域へのサテライトオフィスの誘致は、都市部からの移住促進、地域活性化の面で有効であると考えています。</p> <p>県では、今年度から古民家等の空き家や廃校舎等に企業等のサテライトオフィスの誘致を図っており、今後も、全国の先進的な取組も参考にしながら進めてまいります。</p>
1 3	<p>【産業振興と雇用創出】</p> <p>地域産業の振興、技術開発と新たな市場開拓支援、新規創業の促進とベンチャー企業の育成などにおいて、「支援機関等と連携」の記述があったほうがよい。生き生きプラン「企業支援プログラム」の中では記述されている。</p>	<p>御提案の支援機関等との連携は重要であることから、2-①「産業と雇用創出」の課題と対策で、「このため、」の後に「市町村や支援機関等と連携しながら」を加えます。</p>
1 4	<p>【産業振興と雇用創出】</p> <p>産業振興と雇用創出は急務である。KPIの数値をこれより大きくすることはできないか。特に雇用創出数が大きくなれば、岡山県の人口増加に直結すると思われるので注力いただきたい。</p>	<p>産業振興と雇用創出を積極的に推進してまいります。KPIの数値は、現況値を踏まえ、5年後を目標に設定しているところです。御意見の雇用創出数の増加は、人口増加に寄与することから、企業にとって魅力ある誘致施策を展開するなど、産業振興と雇用創出を積極的に推進してまいります。</p>
1 5	<p>【産業振興と雇用創出】</p> <p>KPIに「県内大学新卒者の県内就職率」を掲げているが、Uターン者数を増やすため、県内出身者の新卒者の県内就職率の増加を目標に具体数字を掲げて施策に取り組むべき。</p>	<p>県内出身者の大学・短期大学・専修学校等進学後の県内就職状況を把握できていないことから、御提案の県内出身新卒者の県内就職率についてはKPIとして設定できませんが、推進施策に掲げたとおり、若者のIUターン就職を促進してまいります。</p>
1 6	<p>【産業振興と雇用創出】</p> <p>入り込み観光客数としてKPIに「後樂園の入園者数」を入れているのであれば、県北地域のどこかも加えるべき。また、宿泊施設での人泊数をKPIとして設定するべき。</p>	<p>岡山後樂園は本県における代表的な観光地であるとともに、県管理の観光地であることからKPIに設定しています。</p> <p>なお、観光産業はすそ野が広く経済的な波及効果が大きいことから、県全体の観光関連の指標として、観光消費額を設定しているところです。</p>

17	<p>【多様な人材が活躍する社会の実現】</p> <p>推進施策と重要業績評価指標が一致しない。健康寿命ではなく、障害のある人や高齢者の就労率、出産・子育て後の女性の再就職率などを評価指標とする必要がある。</p>	<p>健康寿命の延伸には様々な要因があるものの、他県で実施した調査では、社会参加をしている人が、健康寿命が長いことが指摘されています。このことから、仕事や地域活動への参加などの環境整備の推進が、健康寿命の延伸につながると考えられるために、評価指標としているものです。</p> <p>また、御提案の指標についてですが、高齢者の就業率は、5年周期の国勢調査で把握できますが、年ごとの数値は把握できません。障害のある人の雇用率については、法定雇用率の2%を遵守するよう企業に働きかけを行っているところです。出産・子育て後の女性の再就職率は数値の把握ができていないところです。</p>
18	<p>【多様な人材が活躍する社会の実現】</p> <p>再就職に対する支援の記載はあるが、出産・子育てのために休職している間の支援に関する記載がない。</p> <p>休職中の社員や職員を抱える企業に対する支援制度の新設・拡充を推進施策に織り込み願いたい。</p>	<p>国において、育児休業取得者の代替要員の確保のために中小企業事業主に対し助成する制度を設けているところであり、県では御提案の支援制度の新設等については考えていませんが、制度が十分活用されるよう、引き続き、働きかけてまいりたいと考えています。</p>
19	<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <p>貧困の連鎖を断ち切り、格差是正と社会の底上げを図るためには、生活困窮家庭の子どもたちに対する教育の場の確保が重要である。一般的な学力の向上という方向性だけではなく、もう一步踏み込んだ生活困窮者対策が必要である。</p>	<p>県では、経済的な理由で子どもが教育機会を失うことがないように、放課後児童クラブや地域未来塾などの学習支援を行っています。今後も市町村教育委員会等と連携しながら、こうした取組を進め、教育の機会均等を図ってまいります。</p>
20	<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <p>地域に根ざしたグローバル・リーダーの育成において、「大学や経済団体と連携」は地域協議会メンバーには国際交流関係機関も含まれるので、「経済団体等」がよい。</p> <p>また、「地域企業等での」は「地元企業等」の記述の方がよい。</p>	<p>御意見を踏まえ、「大学や経済団体と連携」を「大学や経済団体等と連携」に修正し、「地域企業等」は、事業の趣旨がより明確になるよう「県内企業等」に修正します。</p>

2 1	<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <p>全国学力テストの順位や暴力行為の発生割合にこだわるのではなく、行政は教育予算の充実（具体的には少人数学級の実現、正規教員の採用増、学校予算の充実など）に力を注いでほしい。</p>	<p>全国学力調査の結果や全国順位がすべてを表すものではありませんが、落ち着いた学習環境整備や、教員の指導力向上などの施策の積み重ねが、全国順位に反映されるものと考えています。</p> <p>暴力行為の発生割合についても、児童生徒の規範意識向上のための施策の積み重ねが反映されるものと考えて指標として掲げているところです。</p> <p>また、教育条件や教育環境の整備のため、毎年度、必要な予算の確保に努めてまいります。</p>
2 2	<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <p>社会減対策として、県立大学だけでなく、岡山大学や県内の大学・短大等への進学を推進する施策が必要ではないか。</p>	<p>大学への進学については、子どもたち一人ひとりがそれぞれの夢や目標の実現に向けて自らの人生を切り拓くことを支援する観点から、県立高校において、県内の大学・短大等への進学のみを推奨することはできませんが、県内大学が取り組んでいる地域貢献活動と連携して郷土への愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材の育成に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
2 3	<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <p>学校教育の質の向上のために、教員の質の向上が必須である。閉鎖的環境になりやすい学校では、教員の考え方も硬直し時代に即座に対応した指導ができなくなるおそれがあるため、定期的な外部研修を行うべきではないか。</p>	<p>これまでも、教員を民間企業に派遣しての研修等を行ってきたところですが、今後も様々な研修機会の充実に努めてまいります。</p>
2 4	<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <p>勉強をしなかったことから、貧困の連鎖に陥っている人がいる。働く機会を得るためにはしっかり勉強をして、自分の力で生活していくことを小さい頃から教育していくことを考えてほしい。</p>	<p>御指摘のような状況を改善するためには、小学校段階からの継続したキャリア教育の充実が大切であると考えており、今年度、小学校での学ぶ意欲を高める実践を集約した実践事例集を作成し、各校への普及を図ることとしています。</p> <p>また、中学生の望ましい職業観や勤労観を育てるとともに、自己の生き方を考え、様々な課題を乗り越えながら学習や生活にチャレンジできるよう、地域における職場</p>

		体験活動の実施を支援しており、御指摘の点も踏まえ、一層自己の生き方を考える学習を充実してまいります。
25	<p><b>【魅力ある教育環境の整備】</b> 大学の持つ技術と企業の持つ機能を結びつけるため、行政による支援が重要である。</p> <p>行政として大学コンソーシアム他を活用した大学と個人や企業が協働できる仕組みづくりをお願いしたい。</p>	<p>推進施策「技術革新の支援」(P21)に、研究開発拠点である工業技術センター等を中心に、産学金官の連携による新技術・新製品の開発等を支援することを盛り込んでおり、岡山・産学官連携推進会議などを通じて、引き続き、産学金官連携による技術開発、製品開発を支援してまいります。</p>
26	<p><b>【拠点機能の確保】</b> 「小さな拠点」づくりにおける市町村、県を越えた連携の支援を行うべきではないか。</p>	<p>県では、「小さな拠点」の形成に取り組む市町村を支援することとし、今後、具体的な支援内容を検討することにしてはいますが、小さな拠点と集落を結ぶネットワークなど、市町村や県を越えた連携に対する支援についても、検討してまいります。</p>
27	<p><b>【情報発信力の強化】</b> 課題と対策の中で、「知名度を高める」とあるが、名前だけを売り込むのではないはずである。もう少し、具体的な記述があると分かりやすい。</p>	<p>御意見を踏まえ、課題と対策に、「暮らしやすさなど、本県の魅力をPRすることにより」を加えます。</p>
28	<p><b>【地域社会の活性化】</b> 中山間地域等の活性化の取組として、ソーシャルビジネスなど、地域内での経済循環についても記述すべきではないか。</p>	<p>中山間地域等におけるソーシャルビジネスの手法の活用などは重要であり、御提案を踏まえて、地域経済の活性化も含め、地域の活性化を図るため、ソーシャルビジネスの手法を活用することを明記します。</p>
29	<p><b>【地域社会の活性化】</b> 「県立高校のあり方を検討する」とは中山間地域の高校廃校をさらに進めるという意味か。</p>	<p>「県立高校のあり方を検討する」に関しては、時代の進展やニーズに対応した教育内容の検討や地域と連携した学校づくり等の魅力ある高等学校づくりの方策とともに、さらなる生徒減少に伴って高等学校の小規模化が想定される状況における、地域の状況を踏まえた学校規模や学校・学科等の適正配置等、高等学校教育の基盤整備の方策について、外部の有識者の意見を踏まえ検討を進めてまいりたいと考えており、廃校のみを前提とするものではありません。</p>



		せん。
30	<p><b>【行政運営の効率化・最適化】</b>          公共施設、道路、橋、トンネル、水道等のインフラが不要となる地域が発生することが予想されるが、県としての対応や方針が計画に記載されていない。人口減少社会を踏まえ、インフラの評価方法、地域住民の合意形成や県民の意見集約の方法等を計画に織り込んでおく必要がある。</p>	<p>今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、長期的な視点をもって公共施設等を総合的かつ計画的に管理するため、公共施設等総合管理計画の策定に取り組むこととしています。</p>